世界報道写真展2017　出展作品リスト

パネル	写真家	国籍	カテゴリー	内容
1 2 3	ブルハン・オズビリジ	トルコ、AP通信	世界報道写真大賞 「スポットニュース」の部 組写真1位	2016年12月19日、アンドレイ・カルロフ駐トルコ・ロシア大使がトルコ・アンカラの美術館でスピーチ中、非番のトルコ人警察官メブリュト・メルト・アルトゥンタシュに暗殺された。アルトゥンタシュは「アラー・アクバル（神は偉大なり）」と叫んだ後、「アレッポを忘れるな。シリアを忘れるな」とトルコ語で続けた。その後、現場に駆けつけた特殊部隊に射殺された。
4	ローレン・ファン・デル・ストック	フランス、ゲッティ・イメージズ・ルポルタージュ、ル・モンドに掲載	「一般ニュース」の部 単写真1位	モスル東端にあるコクジャリの解放に向けたイラク軍による奪還作戦において、イラク軍特殊部隊（ISOF）の対テロ大隊が民家を捜索する間、家の外でじっと待つ少女。
5 6	アレッシオ・ロメンツィ	イタリア	「一般ニュース」の部 組写真3位	リビア暫定統一政府である国民合意政府（GNA）が指揮するGNA軍による、港町シルトの奪還作戦。リビアでは、リビアの最高指導者ムアンマル・カダフィが権力の座を追われてから政治の空白が生まれ、その隙に過激派組織「イスラム国（IS）」が急激に勢力を伸ばし、シルトはシリアのラッカ、イラクのモスルと並ぶISの3大拠点となっていた。
7	ワリード・マシュハディ	シリア、AFP通信	「スポットニュース」の部 組写真2位	アサド（バッシャール・アル＝アサド）政権派軍と反政府勢力による内戦の激戦地となったアレッポ。アレッポ東部で孤立状態に陥った市民はおよそ25万人。そのうち10万人が子どもだった。
8	マグナス・ウェンマン	スウェーデン、アフトンブラデット紙	「人々」の部 単写真1位	9月、イラク北部のデバガ難民キャンプで母親に寄り添われるマハ（5歳）。その1週間前、マハは、過激派組織「イスラム国（IS）」の恐怖と食糧難によってやむなく郷里を去った。「私には夢がない。もう何も怖いものはない。」と静かに言う。
9 10	セルゲイ・ポノマレフ	ロシア、ニューヨーク・タイムズに提供	「一般ニュース」の部 組写真2位	米国など多国籍軍を後ろ盾にするイラク軍特殊部隊（ISOF）は10月、過激派組織「イスラム国（IS）」からのモスル奪還作戦を開始した。戦闘の巻き添えとなる犠牲者が増加し、多くの人々が危険を承知で脱出の道を選ぶようになった。
11 12	マシュー・ウィルコックス	イギリス、MOAS	「スポットニュース」の部 組写真3位	衝突、貧困、不安定が続くアフリカや中東の一部では、人々が少しでも良い暮らしを求めてヨーロッパへと海を渡る危険な旅を余儀なくされていた。難民は救命胴衣や、十分な食糧や飲料水、燃料も積まないまま、航海に不向きな小型船にすし詰めにされ、命を落とす人も少なくない。
13左	サンティ・パラシオス	スペイン、AP通信	「一般ニュース」の部 単写真2位	地中海でイタリアに向かっていた小型船から難民船に移され、弟を元気付ける11歳のナイジェリア人少女。母親はサハラ砂漠横断の末にリビアで亡くなった。
13右	ダニエル・エター	ドイツ、デア・シュピーゲル誌に掲載	「現代社会の問題」の部 単写真3位	リビアのサーマンにある難民収容所で泣きながら抱き合うナイジェリア難民。同所には数百人の女性が収容されており、性的暴行や暴力の報告も多く、食糧や飲料水も不足している。
14左	フェリペ・デイナ	ブラジル、AP通信	「スポットニュース」の部 単写真3位	イラクのモスルでイラク軍特殊部隊（ISOF）所属の装甲車両が過激派組織「イスラム国（IS）」支配地域に向かっていた際、すぐ隣で自動車爆弾が爆発した。モスルは2014年6月にISが掌握していたが、ISOFや同部隊と予定より1カ月早く合同奪還作戦を開始し、ISに対する重要な軍事介入となった。
14右	アブド・ドゥマニー	シリア、AFP通信	「スポットニュース」の部 単写真2位	反体制派勢力が支配するドゥマで2016年9月12日の空爆と砲撃後、応急の診療所で痛みに耐えるシリア人の子ども。
15	ジャマル・タラカイ	パキスタン、EPA通信	「スポットニュース」の部 単写真1位	2016年8月8日、パキスタン・バルチスタン州クエッタで発生した自爆テロ攻撃の負傷者を助ける生存者や目撃者ら。バルチスタンは、スンニ派とシーア派の対立による武力衝突や、分離主義を掲げるバルーチ族の暴動に影響を受けている。とりわけ弁護士が攻撃の標的になっている。
16左	バディム・ギルダ	ルーマニア、AP通信	「現代社会の問題」の部 単写真2位	2016年3月14日、ギリシャとの国境の町イドメニ近くのマラレカ川を渡る難民の中に、体を支えられながら渡る女性の姿。
16右	ポーラ・ブロンスタイン	アメリカ、ゲッティ・イメージズ・ルポルタージュ、ピューリッツァー危機報道センターに提供	「日常生活」の部 単写真1位	2016年3月、アフガニスタンのカブールで爆風を受けて負傷したおいのシャビルを抱くナジバ。アフガニスタン戦争（2001年～2014年）は表向きは終結しているが、米国など国際部隊とタリバーンの間の衝突は続き、攻撃が市民生活を脅かしている。
17 18	トマス・ムニタ	チリ、ニューヨーク・タイムズに提供	「日常生活」の部 組写真1位	キューバの前国家評議会議長（国家元首）で共産主義革命の指導者でもあったフィデル・カストロが2016年11月26日に死去した。国中が大いなる悲しみに包まれ、葬列を見ようと多くの人々が集まった。
19	ラロ・デ・アルメイダ	ブラジル、フォリャ・デ・サンパウロ紙に掲載	「現代社会の問題」の部 組写真2位	ブラジルでは、ジカウイルスの影響で小頭症の赤ちゃんの数が急増した。世界保健機関（WHO）によると、2015年の急増時点から2016年末までの期間にジカウイルスによる小頭症の症例数が2,289件に達したことから、WHOはジカウイルスについて国際的な公衆衛生上の緊急事態を宣言した。
20	ジョナサン・バックマン	アメリカ、ロイター	「現代社会の問題」の部 単写真1位	2016年7月9日、アメリカ・ルイジアナ州のバトンルージュ警察署前にて、黒人への警察官の暴力に対する抗議デモで、静かに立ちふさがるイエシア・エバンス。警察官による黒人射殺事件が相次ぎ、全米で緊張が高まっている最中に発生したのが、この射殺事件だった。
21 22	アンバー・ブラッケン	カナダ	「現代社会の問題」の部 組写真1位	「ダコタ・アクセス・パイプライン」（DAPL）は全長1,886キロに及ぶ地下石油パイプライン。ノースダコタからイリノイ州の輸送ターミナルまでを結ぶ計画で、2016年には大部分が完成した。一方で、スタンディングロック・スー族は、水質汚染や部族の神聖な土地への影響を懸念し、DAPLに反対している。
23 24	ピーター・バウッサ	ドイツ	「現代社会の問題」の部 組写真3位	ブラジルでは何百万もの人々が安心して住める家もなく暮らし、推定524万戸が不足している。政府は公営住宅計画を打ち出しているが、リオデジャネイロの西部にある通称「ジャンバラヤ」なる地区には、依然、廃虚となったアパートに約300世帯が不法占拠の形で住み着いている。
25	ノエル・セリス	フィリピン、AFP通信	「一般ニュース」の部 単写真3位	フィリピン・マニラにあるケソン市刑務所で、夜、階段で眠る受刑者ら。1953年に建てられた同刑務所には現在3,800人が収容されているというが、国連は278人未満に抑えるよう勧告している。ロドリゴ・ドゥテルテ大統領が麻薬撲滅を宣言後、フィリピン全体で収監者数が急増した。
26 27	ダニエル・ベレフラク	オーストラリア、ニューヨーク・タイムズに掲載	「一般ニュース」の部 組写真1位	フィリピンのロドリゴ・ドゥテルテ大統領は、就任直後から全国一斉の麻薬撲滅作戦に乗り出した。アムネスティ・インターナショナルは、この作戦で民間人や警察が裁判手続きを踏まずに容疑者を殺害するなど、人権侵害につながっていると報告している。
28	フランチェスコ・コメロ	イタリア	「日常生活」の部 組写真3位	ロシアのモスクワとヤロスラブリの境界を走るにぎやかな通りから一歩入ったところにある、“陸の孤島”と呼ばれる集落。1990年代に東方正教会の司祭が発見するまで、外部に知られていない隠れた存在で、現在、家庭や社会の問題を抱える子どもたちを引き取り、面倒を見ている。
29 30	エレナ・アノソバ	ロシア	「日常生活」の部 組写真2位	ロシアの極北地域を流れるニジニャヤ・ツングースカ川のほとりにある、きわめて隔絶された生活を送る人々の小さな集落。100人ほどの成人が暮らし、電気は、ディーゼル発電機で朝と夜だけ供給される。狩猟と毛皮取引が集落の経済の重要な柱だ。
31左	ロビン・ハモンド	ニュージーランド、ヌール・イメージズよりハンディキャップ・インターナショナルに提供	「人々」の部 単写真2位	南スーダンのジュバに暮らす、精神病を患うヘレン・アルフレッド。南スーダンでは精神病は、魔術の影響と見られやすく、社会に対する危険な存在として扱われがちだ。ジュバには所定の資格を持つ精神科医や臨床心理士が数人しかいない。

世界報道写真展2017　出展作品リスト

パネル	写真家	国籍	カテゴリー	内容
31右	クリスティーナ・コミリツィーナ	ロシア、ロシア紙コメルサント	「人々」の部 単写真3位	フィデル・カストロの死から1週間後、キューバ中部のカマグエイの警察署でソファに座り、中継を見る女性と子ども。全国を巡回中だった前国家評議会議長の葬列がちょうどカマグエイを出発し、サンチアゴ・デ・クーバに向かうときのことだった。
32 33	アントニオ・ジポタ	イタリア、アジェンツィーア・コントロルーチェ	「人々」の部 組写真2位	毎年12月28日にスペインのイビで行われる"クーデターごっこ"。住民は、小麦粉や卵を投げ合い、爆竹を打ち鳴らす。「エルス・エンファリナッツ」と呼ばれるグループが町を支配し、バカバカしい法律を発布して違反した者に罰金を科す。その日の終わりに、集まった罰金は慈善活動に寄付される。
34 35	マイケル・ビンス・キム	アメリカ	「人々」の部 組写真1位	1905年、SSイルフォード号に乗った約1,000人の人々（当時は大韓帝国の人々）が朝鮮半島からメキシコにやってきた。1910年、大韓帝国が当時の大日本帝国に併合されたことによりその多くがメキシコに留まり、現地のマヤ人女性と結婚した。その子孫が暮らしている。
36左	マシュー・ペイリー	フランス、ナショナル・ジオグラフィックに掲載	「日常生活」の部 単写真3位	中国西部・新疆ウイグル自治区のヤルカンドとカシュガルの間を列車で移動中、ストッキングに現金を入れているウイグル族の女性。ウイグル族の女性は、イスラム教徒だが、伝統的な服装の規定に必ずしもこだわらない。
36右	王鉄軍	中国	「日常生活」の部 単写真2位	中国・徐州の体操学校では、午後の30分間、足趾圧力（足指で床を押す力）のトレーニングが行われている。中国には2,000校を超えるスポーツ学校があり、オリンピック出場選手の95%を輩出している。
37 38	ベンセ・マテ	ハンガリー	「自然」の部 組写真3位	自然生息地で捉えた動物たちの夜の姿。南アフリカ・ムクゼにあるジマンガ私営動物保護区にて。
39	フランシス・ペレス	スペイン	「自然」の部 単写真1位	大西洋北東のカナリア諸島テネリフェ沿岸で、捨てられた漁網が絡まったまま泳ぐアカウミガメ。国際自然保護連合（IUCN）により絶滅危惧Ⅱ類（VU）に分類されているが、大西洋北東地域の亜種としては、より絶滅の恐れが高い絶滅危惧IB類（EN）に指定されている。
40	ナヤン・カノルカール	インド	「自然」の部 単写真2位	ムンバイ郊外のサンジェイ・ガンジー国立公園隣接の住宅・レクリエーション・農業地区「アーリー・ミルク・コロニー」で、夜間に敷地内をうろつくヒョウ。ヒョウはゴミ捨て場に集まる野犬などを目当てにやってくる事例が増えているが、人間が襲われたり、ヒョウが密猟のわなにかかったりする報告がでている。
41	ハイメ・ロホ	スペイン	「自然」の部 単写真3位	メキシコ・ミチョアカン州のエルロサリオ・チョウ保護区の森で、猛吹雪の後、カーペットのように地面を埋め尽くしたオオカバマダラと呼ばれるチョウ。驚異的なスタミナを持ち、氷点下でも数日間生き続けられるが、今回の猛吹雪がオオカバマダラの一群に与えた影響ははっきりしない。
42 43	ブレント・スタートン	南アフリカ、ゲッティ・イメージズ・ルポルタージュ、ナショナル・ジオグラフィックに掲載	「自然」の部 組写真1位	アジアではサイの角に薬効があると昔から珍重されているが、近年、需要が急拡大し、密猟者の犠牲になったサイが急増した。サイの角の国際取引禁止を解禁しようと活動する人たちと、環境保護推進派との間で反発が起こっている。
44 45	アミ・ヴィタール	アメリカ、ナショナル・ジオグラフィックに掲載	「自然」の部 組写真2位	かつて絶滅危惧種だったジャイアントパンダは、今では危急種と考えられ、絶滅のリスクが一段和らいだ。中国によるパンダ生息地保護活動が大きな役割を果たしている。
46	ジェイ・L・クレンデニン	アメリカ、ロサンゼルス・タイムズ	「人々」の部 組写真3位	2016年リオ五輪を数週間後に控え、カリフォルニアから出発する選手たち。
47	キャメロン・スペンサー	オーストラリア、ゲッティイメージズ	「スポーツ」の部 単写真2位	2016年1月25日、オーストラリア・メルボルンのメルボルン・パークで開催された2016年全豪オープンの4回戦、ガエル・モンフィス（フランス）がアンドレイ・クズネツォフ（ロシア）と対戦した際に見せたダイビングしながらのフォアハンド。
48左	カイ・オリバー・プファッフェンバッハ	ドイツ、ロイター	「スポーツ」の部 単写真3位	2016年8月14日、ブラジル・リオデジャネイロ夏季オリンピックで100メートル準決勝に勝利し、後ろを振り向きながら笑顔を見せるジャマイカのウサイン・ボルト。
48右	トム・ジェンキンス	イギリス、ガーディアン	「スポーツ」の部 単写真1位	2016年4月9日、イギリス・リバプールのエイントリー競馬場で開催された障害レース「グランドナショナル」の競技中、「ザ・チェア」と呼ばれる障害で失敗、騎乗したサー・デ・シャン（左）から振り落とされる騎手のニーナ・カーベリー。
49 50	ジョバンニ・カプリオッティ	イタリア	「スポーツ」の部 組写真1位	マディ・ヨーク・ラグビー・フットボール・クラブ（RFC）は、カナダ・トロントで初めてゲイに寛容なラグビーチームとして2003年に設立された。同クラブは、ラグビーのようなきわめて男性的なスポーツにゲイが不向きという考え方に異を唱え、ゲイのスポーツ選手を巡る固定観念を打破するために誕生した。
51	マイケル・ハンク	チェコ共和国	「スポーツ」の部 組写真2位	コンピューターゲームの人気が高まる中、チェコ共和国では今も青少年向けチェス大会が根強い人気だ。現在、全国チェス連盟の会員数は1万5,000人。そのうち15歳未満が3,000人を占める。
52	ダレン・カラブリーズ	カナダ	「スポーツ」の部 組写真3位	カナダ・ノバスコシア州ハリファクス出身のリンゼイ・ヒルトンは生まれながらにして手足を持たない。リンゼイは、クロスフィットと呼ばれる、高強度のインターバル・トレーニング、重量挙げ、体操を組み合わせたフィットネス方法に取り組んでいる。
53 54 55 56	バレリー・メルニコフ	ロシア、ロシア・セボードニャ（ロシアの今日）に提供	「長期取材」の部 1位	2014年4月、ウクライナの東端にあるドネツク州とルガンスク州の一部が親ロシア分離独立派によって占拠された。これを受けてウクライナ政府は軍事作戦を開始し、衝突は全面的な戦闘状態へとエスカレートした。衝突に直接的な関わりが皆無に等しいにもかかわらず、平和に暮らす人々が最も大きな犠牲となった。
57 58 59 60	ホセイン・ファテミ	イラン、パノス・ピクチャーズ	「長期取材」の部 2位	1979年のイスラム革命以来、イランはきわめて保守的な神政主義を貫いてきた。欧米文化の流入は徹底的に制限されてきた。イラン人口の約60%が30歳未満とあって、革命以前の祖国の姿を知る者は少ない。だが、インターネットや（まだ違法だが）衛星テレビを介して一般家庭に欧米の若者文化や現代の文化が流れ込んでいる。
61 62	マークス・ジョケラ	フィンランド、ヘルシンギン・サノマット	「長期取材」の部 3位	アメリカ・ネブラスカ州の小さな田舎町テーブル・ロック。1992年に308人だった人口は2015年には255人に減少している。テーブル・ロックの住民のほとんどは、一生涯をこの地で過ごす。

※　組写真作品ではキャプションの一部が重複しています。
※　パネルの番号と展示の順番は一致しておりません。